シェイクスピアの英語における carry の意味，用法*
―― 基本語彙の意味，用法研究の方法 ――

三　輪　伸　春

はじめに

シェイクスピアの *Coriolanus* に次の一節がある。

(1) First he was a noble servant to them, but he could not carry his honors even.（第一，彼はローマにとっては一種の英雄であった，もっともその名誉をうまく維持することはできなかったが）(COR.4.7.37)

この一節に用いられている carry について，*Riverside* 版には，carry his honors even = bear the weight of his honors without losing his balance. という注釈が与えられている。一方，シュミット（A. Schmidt）の *Shakespeare Lexicon* には語義の 1 "convey, bear" の用法としての例文で載っている。つまり，*Riverside* 版にある注釈によれば，この一節の carry の意味は「維持する」である。ところが，シュミットは「運ぶ」と解釈している。どちらの解釈が適切なのかを考えながら，シェイクスピアにおける carry の意味，用法を考察する。さらには，一般的に，従来考察されることのなかった日常基本語彙の意味変化研究の視点を追究する。

§1　carry の意味と用法

carry は遠くラテン語の carrum "two-wheeled wagon" に由来し，アングロ・フレンチ語 carier "to cart" を経て14世紀前半に英語に借用された。ＯＥＤ^2（以下，ＯＥＤ）の，

(2) 1. To convey, originally by cart or wagon, hence in any vehicle, by ship,

on horseback, etc.（ＯＥＤ, Carry）

という定義にあるように，最初は「(二輪や四輪の荷馬車で物を）運ぶ」という意味から，一般的に「運ぶ」という意味を獲得した。このことについて，Ｈ・ブラッドリ（Ｈ. Bradley）が『英語発達小史（*The Making of English*)』の中で「意味の一般化」の例として言及している。

(3)　また carry（運ぶ）という動詞は古期フランス語からの借入語だが，語源的には車輪のついた運搬器すなわち car で物を運ぶという意味であった。英語ではこの語を車で運搬しない場合にも使うが，おそらく最初はふざけていったのであろう。今日，物を部屋から部屋へ cart する（荷車で運搬する）と冗談めかして言う類である。結局のところ，この動詞は物を地面から上げて，場所を移動させることを表す最も一般的な語となった。

（H.ブラッドリ，寺澤芳雄訳『英語発達小史』岩波文庫，190-1頁，下線，三輪）

carry に意味の一般化が生じて，意味領域が拡大したのである。ところで，この引用文中の carry という動詞の持っている 2 種類の動作の意味特徴を述べた下線部に関しては，ＯＥＤの carry の項に補足説明がある。

(4)　From the radical meaning which includes at once ‘to remove or transport, and ‘to support or bear up, arise two main divisions, in one of which (Ⅰ.) ‘removal’ is the chief notion, and ‘support’ may be eliminated, as in 4, 5,(...); while in the other (Ⅱ.) ‘support’ is the prominent notion, and ‘motion’ (though usually retained) may entirely disappear. Cf. ‘Do not leave the carpet-bag here; carry it up stairs’ with ‘Do not drag it along the floor; carry it. For the former *take* is now largely substituted.

つまり，ＯＥＤは carry が互いに異なるふたつの意味特徴を持っていること

に着目して，carry の意味を大きくふたつに区分している。すなわち，（Ⅰ）“to remove or transport”，（Ⅱ）“to support or bear up” である。（Ⅰ）は “removal「移動」” が主な概念であり，中でも，ＯＥＤの語義４と５のように，「支持」という意味特徴が全く欠如している場合がある。逆に，（Ⅱ）は “support「支持」” が主たる意味であり，「移動」という動作の概念が全く欠如している場合がある。例文を検討してみる。

(5)　1．Do not leave the carpet-bag here; carry it up stairs.
　　2．Do not drag it along the floor; carry it.

1．の carry は「(階上へかばんを）移動させる」つまり “removal” の意味で用いられており，2．の carry は「かばんを引きずらずに，（しっかりと）持ち上げている」，つまり “support” の意味で使われている。

ＯＥＤにおける carry の語義のうち，“removal” の意味をもつ語義の１から24を抜粋する。

Ⅰ．1．To transport, convey, while bearing up.

Of literal motion or transference in space.

1．trans. to convey, originally by cart or wagon, hence in any vehicle, by ship, on horseback, etc.
[*c*1300] 1330～

2．To bear from one place to another by bodily effort; to go bearing up or supporting.
*c*1340～

3．Also said of a cart, wagon, railway train, ship, bicycle, or other vehicle; so running water wind carries bodies, floating on it, or suspended in it, win carries leaves, balloons, slates, etc.
1377～

4. To bear or take (a letter, message, report, news, and the like).
*c*1340-70～

5. b. esp. to take by force, as a prison or captive.
1584～

10. The wind is said to carry a ship along, which it drives or impels over the sea.
1526～1737

*****With notion of taking away by force***

15. To take as the result of effort, to win (as a prize), succeed in obtaining: also to carry off.

ＯＥＤの carry にある，44以下の句動詞を除く，全語義43のうち，“removal” の意味の初出が1330年［*c*1320年］で，語義数は24に及び，シェイクスピアからも19例引用されていることから，“removal” を意味する carry の用法はシェイクスピアの時代には定着していたことがわかる。

次に，ＯＥＤにおける carry の語義のうち，“support” の意味をもつ語義25－43を抜粋する。

Ⅱ. To support, sustain.

****With more reference to motion.***

25. To hold up, sustain, while moving on or marching; to bear.
1563～

26. To bear, wear, hold up, or sustain, or one moves about; habitually to bear about with one (e.g. any ornament, ensign, personal adjunct: also a name or other distinction).
*c*1380～

27. To bear about (mentally); to have or keep in the mind.
1583～

With chief reference to sustaining.

38. To support, sustain the weight of, bear.

†39. To bear, endure, 'take' (anything grievous).

1583～

以上のようにＯＥＤは，carry には（Ⅰ）“removal” と（Ⅱ）“support” という相異なるふたつの意味特徴があることを明確に記述している。では，なぜ carry という動詞には “removal” と “support” という相異なるふたつの意味特徴が生じたのか。

carry は一般的に「運ぶ」という意味であるが，何かを運ぶには 2 つの方向の動作が必要である。1 つは，「(垂直上方向に持ち上げて) 支える (“support”)」という動作，もう 1 つは，「(持ち上げたものを水平横方向に) 移動させる (“removal”)」という動作である。ブラッドリの『英語発達小史』からの引用文中の下線部は，このような carry の持っている互いに異なるふたつの意味特徴についての示唆である。持っていた 2 つの意味を整理し，“support” という意味特徴と “removal” という意味特徴とに区別する作用が働いた。そしてシェイクスピアなど言語感覚のすぐれた作家たちがふたつの意味特徴の区別を世間一般に浸透させていった。あるいは，世間一般の人々の間に無意識のうちに生じていた意味特徴の区別を言語感覚にすぐれた作家たちが意識的に使い分け，定着させた。実際，シェイクスピアを初出とする carry の用法は，語義の初出が 5 例，句動詞の初出 3 例で計 8 例ある。初出と初出から 2 番目の 6 例を含めて全部の引用は19例に及び，carry の意味用法の確立に貢献していることがわかる。

では，carry の意味特徴を “removal” と “support” とに明確に区別したＯＥＤの定義に基づき実際にシェイクスピアの英語における carry を検討してみる。

§2　シェイクスピアにおける carry

シェイクスピアの時代に，“removal” の意味と “support” の意味が同時に存在していたのであれば，当時の人々はある特定の文脈における carry が “removal” の意味と “support” の意味のどちらの意味で用いられていたのか，どのようにして識別していたのだろうか。ＯＥＤは，carry にふたつの意味特徴を認め，明確に区別はしているが，どのようにしてふたつの意味を区別するのかについては明言していない。そこで，ＯＥＤの語義分析を前提として，実際にシェイクスピアの作品中に出てくる carry145例が用いられている文脈を，詳しく分析すると，シェイクスピアの carry の用法には以下のようなはっきりとした原則が認められる。

（Ａ）総数145例のうち “removal” を意味する carry は81例である。その内訳は，

（Ａ）－１：水平横方向を表す前置詞 to, toward, into, unto が共起することから “removal” を意味することが明らかな例が28例，

（Ａ）－２：to, toward, into, unto 以外の，方向を表す前置詞が共起することから “removal” を意味することが明らかな例が28例，

（Ａ）－３：ＯＥＤが “removal” の語義に含めている「手紙を運ぶ」が５例，

（Ａ）－４：文脈から “removal” の意味であることが明らかな例が20例。

（Ｂ）“support” を意味するのは36例である。

（Ｂ）－１：明らかにそれとわかる具体的な目的語をとることから “support” を意味する例が16例，

（Ｂ）－２：明らかにそれとわかる抽象的な目的語をとることから “support” を意味する例が20例。

（Ｃ）“manage, succeed”（「運ぶ」から「運営する，成功する」）の意味が28例。

以下に，（Ａ）－１，２，３，４，（Ｂ）－１，２，（Ｃ）の例を挙げる。

（Ａ）－１：方向を表す前置詞 to, toward, into, unto が共起している例。

(6) Ah, villain thou wilt betray me, and get a thousand crowns of the King by carrying my head *to* him,...

（やい，この野郎，おれを売る気だな。おれの首を王のところへ持ってって，1千クラウンせしめようって腹だろう。）(2H6 4.10.27)

(7) And floating straight, obedient to the stream, was carried *towards* Corinth, as we thought.

（潮のまにまにコリントとおぼしき方角へただよいはじめたのです）(ERR1.1.87)

(8) Carry him gently *to* my fairest chamber,...

（一番いい部屋へ連れてゆけ，おこさないようにな）(SHR 1.46). Riv.111

(9) Carry this mad knave *to* the jail.

（この気ちがいを牢へ連れて行ってください）(SHR 5.1.92)

(10) ..., there's one yonder arrested and carried *to* prison was worth five thousand of you all.

（ほら，あそこで，逮捕されて監獄に連れてゆかれようとされている人，あの人には旦那がたが5千人も束になってかかってもかないませんよね）(MM1.2.61)

(A)－2：to, toward, into, unto 以外の，方向を表す前置詞，副詞とともに用いられている例。

(11) But be contented:when that fell arrest without all bail shall carry me *away*,...（しかし，保釈もなく死の残忍な拘引によって私をさらっていっても安心してくれたまえ）(Son.74.2)

(12) I think he will carry this island *home* in his pocket, and give it to his son for an apple.（この島を隠し（ポケット）に入れて持ってかえって，林檎のかわりに息子にくれてやるだろうさ）(TMP 2.1.91)

(13) Why should I carry lies *abroad*（なんで私が嘘の私を売り歩くもんですか）(WT 4.4 .271)

(A)－3：ＯＥＤが "removal" の語義に含めている「手紙を運ぶ」。

⑭ Bid him with speed prepare to carry it【=letter】;（急いで手紙を運ぶ準備をしろ，と命じておくれ）(Luc 1294)

⑮ Why, this boy will carry a letter twenty mile, as easy as a cannon will shoot point-blank twelve score.（あの小僧なら，じゅうりの先にまでだって，色文を届けられらあ，大砲で二町先の標的を真っすぐに打ち抜くようにはずれっこない）(Wiv 3.2.32)

⑯ Nay sir, less than a proud shall serve me for carrying you letter.（いいや，旦那さま，手紙の運び賃には1ポンドでなくとも十分です）(TGV 1.1.106)

⑰ , 'tis threefold too little for carrying a letter to your lover. 針を幾重にも折りたんでも，恋人への運び賃になりゃしませんや）(TGV 1.1.109)【この例では，方向を示す前置詞 to もついている】

⑱ ...henceforth carry your letters yourself:（これからはご自身で手紙はお運びください）(TGV 1.1.145)

⑲ Fetch hither the swain, he must carry me a letter.（あの田舎者を連れてこい。手紙を持たせてやらねばならぬから）(LLL 3.1.49)

(A)－4：文脈から "removal" の意味であることが明らかな例。慣用句とみられる carry coals（「石炭を運ぶ」→「侮辱をしのぶ」）を含む。

⑲ Thither goes these news, as fast as horse can carry them--（大至急でこのことを知らせよう）(2H6 1.4.74)

⑳ 'Inprimis, she can fetch and carry: why, a horse can do no more; nay, a horse cannot fetch, but only carry, therefore is she better then a jade.（第一，物の持ち運びが可能【雑役ができる】 いやあ，馬だってそれ以上のことはできないぞ。いや，馬は，運びができるだけで，持つことはできない (TGV 3. 1.272-4)

㉑ for the goose carries not the fox.（鵝鳥が狐に追い付いてかっさらってはゆけないから）(MND 5.1.236)

㉒ No drop but as a coach doth carry thee;...（ただしずくだに，君を運ぶ

車ならざるなし）（LLL 4.3.33）

carry coals で「耐える」という意味の慣用句 2 例。

(23) I knew by that piece of service the men would carry coals.（そのお手柄から，この連中はどんないやしいことでもやる臆病者だと分かった）（H 53.2.46）

(24) Gregory, on my word, we'll not carry coals.（グレゴリ，もうこれ以上侮辱をしのぶのはまっぴらだ）（Rom 1.1.1.）

これに対して，“support” の意味で用いられている場合には，carry の目的語の性質によって容易に識別できる。

（B）－1：明らかにそれとわかる具体的な事物（weapon, armor, gate（×2），cannon, balls and sceptres, me（私の身体），him(self), train（裳裾），pocket（「我慢」とかける），ears and eyes, brave form, house）が目的語となっている。さらには，支えている場所を表す語句（on his back, by oursides）が明らかにされている場合がある。

(25) Forbidden late to carry any weapon,（このところ武器の携帯を禁じられていたもので）（1H6 3.1.79）

(26) ; and some I see that twofold balls and treble sceptres carry.（あそこにいる奴は，玉を 2 つに笏を 3 つ持っているぞ）（Mac 4.1.121）

(27) I have led you oft: carry me now, good friends, and have my thanks for all.

（今まではおれがおまえたちを背負ってやった。今度はおまえたちの番だ。背負ってくれたら礼をいうぞ）（ANT 4.14.139）

(28) if we could carry cannon by our sides:（大砲を腰にぶら下げるようになったら）（Ham 5.2.159）

（B）－2：明らかにそれとわかる抽象的な名詞（impression, anger, promise, favor, stain（欠点），good will（×2），sin, authority, honor, mind,

peace, valor, crotchet, desire, the stamp of one defect, quality, affliction, discretion）を目的語に持っている例。

(29) that these men, carrying I say, the stamps of one defect,（つまりこうした…なにかひとつの欠陥を背負わされた人々の場合だよ）(Ham 1.4.31)

(30) nor any man an attaint but he carries some stain of it（人間の欠点でこの人がそのしみに染まっていないものはない）(Tro 1.2.25)

(31) for where an unclean mind carries virtuous qualities（心の汚れたものが立派な能力をもっていても）(AWW 1.1.42)

(32) My imagination carries no favor in't but Bertram's.（わたしが思い出すのは，ただバートラム様のお顔だけ）(AWW 1.1.83)

（C）"manage" の意味が28例。

(33) This sport, well carried, shall be chronicled.（うまくいったら，このお慰みはあとで語り草になってよ）(MND 3.2.240)

(34) --he will carry't, he will carry't,--（どこって非の打ちどころがねえんだから，勝負は奴さんのもんだぜ）(WIV 3.2.69)

この意味では，(33)のように文脈から明らかな場合の他は，(34)のように carry it（carry't）という形をとる例が多い（28例中16例）のでわかりやすい。

以上に述べてきたことを一覧表にしてみる。

（A）"removal" を意味する carry	小計82
（A）－1：方向を表す前置詞 to, toward, into, unto が共起	28
（A）－2：to, toward, into, unto 以外の方向を表す前置詞,副詞が共起 (abroad, 2 ; away 8 ; before, 2 ; beyond, 1 ; from, 2 ; here and there, 1 ; home, 1 ; on, 1 ; outof, 2 ; out, 2 ; thence, 1 ; hence, 2 ; through, 2 ; in, 1 ; beyond, 1)	29
（A）－3：OEDが "removal" の語義に含めている「手紙を運ぶ」例,	5
（A）－4：文脈から "removal" の意味であることが明らかな例。	20
（B）"support" を意味する carry	小計36
（B）－1：明らかにそれとわかる具体的な目的語をとる例	16
（B）－2：明らかにそれとわかる抽象的な目的語をとる例	20
（C）"manage, succeed"	小計28
	合計146

§3　シュミットの誤り

この結果に基づいて，シュミットの *Lexicon* の語義区分を検討してみると，シュミットにはＯＥＤに記述してある“removal”と“support”という意味特徴の区分という視点が全く欠如している。そのために，シュミットの本文解釈，語義区分に問題がある場合がある。問題がある場合を列挙する。

(35)　..., he carry the town gates on his head, like a porter;
（町の門を背中に背負ったのですからね）(LLL. 1.2.71)

(36)　I do excel thee in my rapier as much as thou didst me in carrying gates.
（わしは門を担ぎのではとてもかなわないが，細身の剣にかけてはおまえよりも上手だ）(LLL. 1.2.715)

(37)　..., he carries his house on his head;
（あんたのズボンのポケットはおおきいからね）(JN. 3.1.201)

この３例の carry は明らかにそれとわかる具体的な目的語を持ち，(35)，(37)はその目的語のある具体的な場所を示す副詞もあり，“support”の意味で用いられている。ところが，シュミットは，*Lexicon* で語義(1) to carry，つまり，“removal”の例としてあげている。

(38)　... Therefore, precisely, can you carry your good will to the maid?
（それ故にですなあ，まさにあんたのあの子に好意をもちえますか？）(WIV. 1.1.231)

(39)　Nay, Got's lords and his ladies you must speak possitable, if you can carry your desires towards her.
（なんつうズレッタイことだ。あんたがあの娘に愛情を持ち得るならもっと単刀直接に言明すなければならなんことですぞ）(WIV.1.1.231)

このふたつの例文は *Lexicon* では“removal”の用法に区分されているが，

carry は好意，愛情をあの子に「持っている」のであって，“removal” の概念はない。方向を表す前置詞 to, toward がついているがこれらはそれぞれ，your good will, your desire, についているのであって carry とは呼応していない。

(40) First he was a noble servant to them, but he could not carry his honors even.

（第一，彼はローマにとっては一種の英雄であった，もっともその名誉をうまく維持することはできなかったが）(COR. 4. 7. 37)

本稿冒頭に引用したこの一節に用いられた carry を，*Riverside* 版は “support” を意味すると解して，carry his honors even = bear the weight of his honors without losing his balance. と注釈している。一方，シュミットの *Lexicon* には carry の語義(1)つまり “removal” の例文で載っている。しかし，明らかにそれとわかる抽象的な目的語を持っている他の例と同じく，抽象名詞 honors を目的語にとっているこの場合の carry，は *Riverside* 版にあるように，support の意味ととるべきである。

シェイクスピアの英語にみられる carry の，removal と support との意味特徴，用法上の区別については，シュミット以外のシェイクスピア専門の語彙集にも言及がない。例えば，ネアズ（R. Nares）*A Glossary; Or, Collection of Words, Phrases, Names, Allusions to Customs, Proverbs, &c. Which have been thought to Require Illustration, in the Works of English Authors, Particularly Shakespeare, and his Contemporaries,* 1822, 1882[2] ダイス（A. Dyce），*A Glossary to the Works of William Shakespeare,* 1857, 1902[2]，フォスター（J. Forster），*Shakespeare Word-Book,* 1908，アニアンズ（C. T. Onions），*Shakespeare Glossary*, 1986[2]。

§4　結　論

carry は，古くアングロ・フレンチ語から借用された外来語ではあるが，シェイクスピアの時代までには，完全に英語化し，基本語彙として認識されていた。その carry が removal という意味特徴と support という意味特徴を区別して持つようになり，シェイクスピアの時代にはその区別は定着していた。しかし，なじみのない，それだけに特異な意味を持つ新奇な借用語と違って，基本語彙であればあるほど微妙な意味の違い，用法上の区別はたとえ英語話者といえども難しいはずである。しかし，話し手にも，聞き手にも混乱することなく用いられている以上，なんらかの識別法がなければならない。carry，の場合，「水平に横方向（removal)」の場合には，方向を示す前置詞，副詞と共起し，「垂直に上方向（support)」の場合には，明らかにそれとわかる具体的，もしくは抽象的な目的語が共起することによりその識別が可能である。

一般的に，基本語彙の意味，用法の識別は，その語1語だけではなく，その語と共起する文中の他の要素をも考慮にいれてはじめて可能な場合がある，といえる。特に，現代英語の場合と違って，英語話者の生きた情報，判断がえられない過去の英語の意味，用法の研究には，直感や推論ではなく，具体的に目に見える形で論証するという視点が殊の外重要である。（参考文献は，本文中に言及したもののみ）

（*本論文は『英語青年』1998年7月号に発表した「シェイクスピアの carry」の完全版である。）